

第
14
回

日本小児心身医学会 関東甲信越地方会



大会テーマ

自らのこころの姿勢の再確認

— 子どものこころと向き合うとき —



日時

2024年3月17日(日)

ハイブリッド開催

会場

アオーレ長岡 市民交流ホールA

特別講演 1

11:00~12:00

田中 究 (兵庫県立ひょうごこころの医療センター)
『子どものこころのケア～大切にしたいこと』

特別講演 2

15:00~16:00

西澤 哲 (山梨県立大学)
『虐待臨床の場で出会った子どもたち』

現地参加 > 先着150名 まで

参加登録 > 2024年3月10日(日)まで

参加登録は
こちらから
どうぞ



参加費

会員/非会員ともに 2000円

一般演題 13題

大会長 田中 篤 (長岡赤十字病院小児科)
共 催 長岡市教育委員会

お問合せ

第14回日本小児心身医学会関東甲信越地方会事務局 長岡赤十字病院内
Fax : 0258-28-9000 E-mail : jsppkks2024@gmail.com

<https://jsppkks2023.online/>

自らのこころの姿勢の再確認

ー 子どものこころと向き合うときー

特別
講演
1

『子どものこころのケア～大切にしたいこと』

田中 究 (兵庫県立ひょうごこころの医療センター)



「世界は心的外傷（トラウマ）にみちている」と亡き安克昌先生は記した。トラウマをもたらすものは、自然災害、事故、戦争、犯罪、暴力、虐待などなどその様態はさまざまであり、子ども、成人、高齢者など年齢を問わず、トラウマは存在し、人はそれに苛まれる。トラウマは目に見えない。出来事そのものが覆い隠されていたり、出来事から時間が経てばさらに見えにくくなる。だからこそ、支援者はそこにトラウマの存在へのセンサーを研ぎ澄まし、敏感になる。トラウマは心に刻まれ、容易に癒えることがない。さまざまな治療法が考案され、薬物療法も心理療法もエビデンスを積み重ねている。しかし、ハーマンが述べたように、トラウマからの回復に必要なのはエンパワメントと他者との新たなつながりを築くことであり、人薬、時薬、楽薬（青木省三先生）であり、それが基本である。

トラウマはいつも語りよりも感情や行動に表すことは、子どもに少なくない。子どもと関わる支援者は、そこに現れている感情や行動からそこに隠されているトラウマに気づき、安心と安全の提供できる支援を検討する。

トラウマという言葉がわが国で日常語として使われるようになって約30年になる。そして明視な出来事によるトラウマから、目に見えない傷つきへの気づきとケアの重要性が今日の課題になった。世界はトラウマに満ちているが、人はそれでも人に支えられ、時間歴史に支えられ、喜びや楽しみに支えられて、日々を生きている。そうした、流れと支援について振り返ってみたい。

特別
講演
2

『虐待臨床の場で出会った子どもたち』

西澤 哲 (山梨県立大学)



私が虐待を受けた子どもに関わるようになったのは、学部教育を終え、情緒障害児短期治療施設（現児童心理治療施設）に心理士として職を得た1981年のことである。当時、トラウマという概念はおろか虐待という言葉さえ、精神科や心理臨床の領域にあっても殆ど知られていなかった。子どもたちは「親の行き過ぎた『しつけ』によって身体的損傷を負ったが、その損傷はすでに完治しており問題はない」とされていた。そのため、虐待によるトラウマに起因すると今日では理解される行動や心理状態は的確に理解されず、したがって子どもたちは適切な治療やケアを受けることはできないでいた。私は、「理解不能」とされる子どもたちの心理や行動に翻弄されつつ、なぜか魅きつけられていった。

その後、トラウマ概念と出会い、またアタッチメント概念の臨床的重要性を再認識することによって、子どもたちの行動や心理の意味が少しずつ理解できるようになった（と思い込んでいるだけかもしれない）。それに伴い、トラウマやアタッチメント概念に基づいた心理療法・特にトラウマ体験を扱うプレイセラピーの臨床実践を積み重ねてきており、子どもの心理的な支援も、多少ではあるものの可能になってきたと思う（誤解でないことを祈る）。こうした私の虐待臨床の経験を振り返ると、心理屋として子どもに関わるようになった数年間に、子どもたちが私に与えてくれた「宿題」を解くための日々であったのだと、つくづく思う。

本講演では、心理屋としての私の経験を振り返ることで、私がいかなる宿題をどのように解いてきたのかを見ていきたい。また、虐待を受けた子どもの心理と、虐待傾向を示す親の心理の共通性を検討することで、『虐待の世代間連鎖』の解決という重大な課題への「解答」につながるかもしれない私なりのアイデアを提示できればと考えている。